

園だより 7月号 NO.1

子どもの成長について

先月末に行われた年長組の一泊保育初日は、あいにくの雨でしたが、子どもたちにとっては一生の思い出に残る楽しい行事になったと思います。詳しいことは園長の園だよりに譲りますが、色どりも鮮やかに飾ったお弁当を見ながら、我が子にける親の思いが伝わってきて、目がしらが熱くなる思いをしました。

さて、6月6日の参観日において一部のI号認定保護者に、認定子ども園の教育についてお話ししましたところ、「保育園の話ではなく幼稚園として何をしてくれるのか」との指摘を受けました。保護者の方にとっては、教育と保育の一体など制度の話ではなく、わが子の成長をどのように進めてゆくのが知りたかったのだと思います。また、別の保護者からは、「すいこうは遊ばせるだけの自由保育だ」とも言われました。

新しい認定子ども園制度は始まったばかりで、全国的にも混乱が続く中で、当園の幼保連携型認定子ども園制度を性急に説明しようとしたことや、これから新制度に変わる保護者負担金から説明をしようとしたことなどが、混乱を招いた原因だと反省したところです。

今回は「子どもの成長」について園の考えを申し上げます。7月になるとプールあそびが始まります。今まで民間のプール業者の指導を受けていましたが、一日仕事なので、現在「幼児体育研究所」に職員を派遣してもらって交渉をしているところです。子どもたちには楽しいあそびですが、水の中で目を開けることや、

力を抜くことができたとき、喜びだけでなく自分の力に自信を持ってくれることでしょう。

運動会でも、子供たちは走ったり踊ったり楽しく遊んでいます。新しい種目に挑戦したり、できなかったことができるようになることで、「やればできる」ことや、認められることで「自分に対する自信」を身につけてくれるでしょう。

発表会でも、劇や新しい曲目に戸惑いながら挑戦し、乗り越えたところに、やればできるという新たな自分に対する自信が身につきます。

幼児活動研究会の山下先生は、「子どもたちは、皆、やればできる可能性を持っているのです。幼児期の子どもたちは、集中力は抜群で、体力は伸び盛り。好奇心は旺盛です。できるようになった達成感、一生懸命がんばった後のそう快感、友達と力を合わせたときの一体感の中で、いきいきしています。ここに子どもの教育の原点があります。」とっておられます。

大切なことは、子どもの成長は一人で勝手に伸びるのではなく、周りの大人や友達が見守ってくれたり声をかけてくれるから伸びるのであり、大人(教師など)が目標を決めて引っ張り上げることも必要ですが、子ども自身が自分からやる気になって、取り組む活動(あそび)と、大人が先の見通しをもとにその気にさせる(ボトム・アップ)が必要です。

一泊保育でも子どもたちは大きな自信を身につけてくれたことでしょう。しっかり聞いてあげてください。

理事長

